

事例研究～中国ビジネス法務

北京市大地律師事務所 / 日本部

パートナー弁護士 法学博士 熊琳



第272回 中央政府が2025年度医療分野不正取り締まり通知を公布

中国国家衛生健康委員会をはじめとする公安部、市場監督管理総局、国家医療保障局、国家薬品监督管理局など中央政府の14部門は、2025年5月13日に『2025年度医薬品仕入れ販売および医療サービス分野における不正行為取り締まり業務概要』に関する通知（以下、『2025年度通知』という。）を共同で公布した。2020年以降、これら14部門がこうした通知を毎年共同で公布していることから、医薬品・医療分野における贈収賄などの不正行為に対し、継続的に取り締まり強化を進めるという中央政府の決意が見て取れる。そこで今回は、『2025年度通知』のポイントを解説する。

◇2023年より医薬・医療分野の不正行為に対する法執行強化

中国国内メディアの概括統計によると、中央政府は2023年から医薬品・医療分野の不正行為を対象とした法執行活動を強化している。同年には全国で200人以上の病院長が調査を受けたほか、上場企業の高級管理職が行動制限などを受ける事例が多数発生した。

こうした法執行強化活動は、2024年以降も継続している。中国社会の注目を集めた例としては、著名な整形外科医学の専門家であり、且つ中国工程院の院士でもある北京積水潭病院（病院分類で最高等級の「三級甲クラス」の病院。中国国内の整形外科で最も権威がある。）元院長の田偉氏が、2024年3月に収賄などの容疑で逮捕された事件がある。逮捕時に押収された現金などは田氏の自宅にあったものだけでも数億人民元に上ると伝えられた。院士の立場にある専門家が汚職により逮捕されることは極めて異例であるため、この事件は中国の医療分野における反腐敗の「代表的事件」とされている。

◇『2025年度通知』の主なポイント

『2025年度通知』には、ここ数年と同様に一貫して「汚職・不正行為に対する取り締まり強化」というポリシーが反映されており、主に以下のような内容が含まれている。

1、患者に関わる腐敗行為や不正行為を取り締まり、患者のプライバシー保護や遺伝子検査、生殖補助医療、美容医療、小児弱視の予防・管理、診断書発行などにおける違法行為や規則違反を重点的に監督し、集団的腐敗行為の取り締まりを強化する。

2、医療・保健分野の健全取引体制を構築し、不正行為を招く恐れのあるリスクや危険の予防と解決、事例を参考にした改善の促進と管理方法を強化する。すでに対策がとられた不正行為の再発を防止し、新たな若しくは形態を変えた不正行為や表面化していない不正行為問題に対する事前の警戒を強化し、重要ポストに就く職員を厳格に監督する。

3、医薬品、高額医療用消耗品、医療設備、インフラ・情報技術プロジェクトの入札、ロジスティクスサービスなどを汚職防止の重点分野とする。生産サイドも監督管理の重点規制対象に含まれる。

4、監査面の監督、特に医薬品業界における専門項目会計監査を強化する。製薬会社にコンプライアンス管理の強化を促し、医療機関内部の医薬担当者のコンプライアンス管理を推進する。

5、業界の自主規制及び信用管理を強化し、医薬品流通業界の信用システムの健全化、医薬品の仕入れ・販売分野における贈収賄者「ブラックリスト」制度及び不良企業記録制度の改善を行う。医薬品業界の組織全体の監督管理を強化し、兼職者の報酬規則や学術誌の管理、学会イベントの規範化、支部機構設立を厳格に制限する。

6、インターネット診断・治療を標準化し、規則に反する医薬品広告や医療の普及、または学会活動を名目とした業務宣伝、偽造・捏造・改ざんされた医療関係者を宣伝に使ったビデオマーケティングなどの違法行為を重点的に取り締まる。

7、医療機関内部の管理を強化し、公立医療機関内における中国共産党支部の意思決定参与制度を確立する。医療従事者の道徳・風紀の管理を強化し、医療倫理やモラルに反し、公共の利益や患者の権利、業界のイメージを損なう者を厳しく処罰する。

8、医療保険基金の安全を確保するため、指定医療機関、指定小売薬局、プロの保険金詐欺師を重点的ターゲットとし、医療保険資金詐欺と不正使用を取り締まる。

◇日系企業へのアドバイス

『2025年度通知』の執行により、医療・医薬業界に属する日系企業は間違いなく一層厳格な法令遵守義務に直面することになり、商業賄賂やその他不正行為の発生を未然に防ぐためには、社内教育の機会を更に増やし、事前に様々な予防措置を講じなければならない。今後も中央政府が商業賄賂対策強化を継続する以上、製薬・医療業界にとどまらず、あらゆる業界の日本企業もその最新動向に留意し続ける必要がある。

世界最大口径のシールド機、黄河川底の掘進完了

中国メディアの大衆新聞によると、山東省済南市で建設中の自動車用「黄崗路黄河横断トンネル」で、直径17.5メートルという超大口径の泥土加圧式シールド機「山河号」が黄河の川底区間の掘進作業を完了した。山河号はシールド機として世界最大の直径を有する。

山河号は済南市に拠点を置く済南都市建設集団、建設会社の中鉄十四局集団、済南重工集団の3社と、トンネル用掘削機世界最大手のヘレンクネヒト社が共同開発。2024年9月に同トンネルの建設工事に投入された。

同トンネルは上下2階建て、双方向6車線で全長5755メートル。1本のトンネル内で上下の車線を分ける構造を採用し、設計時速は60キロ。(時事)

大連重工、中国初の河川港インテリジェント化完成

中国メディアの東北新聞網によると、重工会社の大連重工装備集団(大連重工、遼寧省大連市)が江蘇省江陰市で手掛けた中国初の河川港のインテリジェント化事業「江陰港6号バーススマート化改修」が完成し、このほど試運転を開始した。